

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

序：

フォーラムとしてのミュージアムにおける資料保存の重要性

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-12-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉田, 憲司 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15021/00009969">https://doi.org/10.15021/00009969</a>

## 序

### — フォーラムとしてのミュージアムにおける資料保存の重要性

吉田 憲司

(国立民族学博物館長)

今、科学や普遍的とされる価値を背景に固定的な表象を一方向的に生み出すという、これまでの博物館のあり方に対する見直しが、各所で進んでいる。住民参加を基調とするコミュニティに根差した博物館活動の実践、教育現場との連携、収集・展示される側との共同作業を前提とした収集・展示作業の推進、さらには、所蔵する資料の情報を多くの人と共同で充実させ活用していこうとするデータベースの構築。そのいずれにおいても、これまで一方向的に情報を発信するという権力的装置であった博物館が、双方向・多方向の交流と情報の流れを生み出すものとして改めて活用されてきている、という構図を見て取ることができる。

そこに、これからの時代の博物館のあり方、とくに博物館に所蔵されるモノをもともと生み出したコミュニティや社会と博物館との関係について、ひとつの明確な像が結ばれつつあることが確認できるであろう。それは、博物館というものは、その所蔵品の最終的な所有者でなく、むしろ“Custodian”「管理者」であり、本来の所有者や利用者とのあいだでのさまざまな共同作業をおこなう場だという認識である。

美術史家のダンカン・キャメロンは「テンプルとしてのミュージアム」と「フォーラムとしてのミュージアム」という語を用いて、博物館・美術館のあり方の類別を試みた(Cameron 1971)。テンプルとしてのミュージアムとは、すでに評価の定まった「至宝」を人びとが「拝みにくる」神殿のような場所、一方、フォーラムとしてのミュージアムとは、未知なるものに出会い、そこから議論が始まる場所という意味である。筆者が、このキャメロンの議論を最初に紹介したのは、1997年のことであるが、世界の博物館はその後、間違いなくフォーラムとしての性格を色濃く帯びようになってきている。

これまでは、次のような主張がまかりとおっていた。「アフリカの遺産をアフリカにおいておくと、盗まれたり、風化するままに放置される。一方、それをヨーロッパやアメリカのミュージアムで保存すれば、人類共通の遺産として未来の子孫に残せるのだ」という主張である。しかし、今や、そのような主張が通用しなくなってきた。それぞれの国の遺産は、それぞれの国がナショナル・ミュージアムを作ってそこで保存する。外に出す必要はない。他方で、交通の発達、人とモノの移動をますます容易にしている。今後、それはもっと加速するであろう。移動はたやすくなったが、国境を超えて「異文化」の産物を所有するというのは、ますます難しくなっていく。また、そうした産物の展示も、それが属する当の文化の人びとの了解や合意なしにはかなわない。今、私たち

はそのような時代に生きているのである。そういう時代における博物館・美術館というものに一体どのようなありかたが可能なのか。先に述べた、所蔵品の最終的な「所有者」でなく、むしろ「管理者」であり、本来の所有者や利用者とのあいだでのさまざまな共同作業をおこなう場、フォーラムとしてのミュージアムにこそ、その解答が宿されているように思われる。

博物館が所蔵品の最終的「所有者」ではなく、「管理者」であるからといって、博物館資料の保存の作業をおろそかにしてよいということにはならない。いや、むしろ、「管理者」であるからこそ、その負託に応え、現在と未来における活用に向けて、所蔵する資料の適正な保存を図ることが重要となる。博物館における資料の保存の重要性は、ますます高まっているといわなければならない。

その一方で、脱炭素社会の構築に向けて、博物館における資料保存にも、化学薬剤を用いない殺虫処理や温室効果ガスの削減・撤廃など、大きな課題が突きつけられている。さらに、2020年、地球規模での新型コロナウイルス感染症の急拡大を受けて、コロナ禍における感染症対策、展示・収蔵環境の整備も迫られることになった。

本書は、こうした現代の博物館に求められる持続可能な資料保存・管理に向けて、国立民族学博物館が主体となって展開した共同研究「博物館における持続可能な資料管理及び環境整備——保存科学の視点から」（研究代表者・園田直子）の成果を取りまとめたものである。そこには、国立民族学博物館をはじめ、国内の多彩な博物館・美術館・研究機関における先進的な資料管理及び環境整備の活動が紹介されている。本書の議論を通じて、21世紀の博物館に求められる課題が明らかにされ、将来に向けた指針が広く共有されることを願っている。

## 参考文献

Cameron, D.

1971 The Museum: A Temple or the Forum. *Curator: The Museum Journal* 14(1): 11-24.